

あきらめる人・あきらめない人

～脳科学から見た変革・挑戦・心の多様性～

18S2039 富樫 和子

今回の講義、最初にゆき先生がおっしゃっていたように、ほんと難しかったです。1回聞いてよくわからなかったので、2回聞きました。

驚いたのはセリグマンの犬の実験でした。

電気刺激から回避する方法があるのとないのとで、その後の行動に驚くほどの違いがでてくるということです。

自分では制御できない環境で育つと、学習性無気力症になり、最初からあきらめてしまう。制御できないとわかると、ほかのことも全部諦めてしまう。

制御できることを知っているると逆にどんな状況でもあきらめないで立ち向かう。

自分に置き換えてみて、「そういうことだったのか」と思いました。

私は、「なんでも何とかなる」と思って生きているので、そう思わない人のことが「不思議」でした。

それが、このようなメカニズムが絡んでいるからなのだとわかりました。

今後、自分のスタッフに対しても、できるようになる「成功体験」をさせることが重要だと思いました。

サルの実験や赤ちゃんの実験、犬の実験は、実験自体は意味のあるものだと思いますが心が痛む実験ですね。

でも、サルの実験、赤ちゃんの実験で母親とのかかわり、温かさ、表情、スキンシップの重要性良くわかりました。

新しい技術情報は毎年倍々で増加していて、4年生の理工系大学を出た学生の知識は卒業時には時代遅れになっているというくらい、いろんなことがものすごい速さで変わってきていて、ついていけないくらいになっている。にも関わらず、人間については分かっていないことも多く、本当に人として必要なものは、アナログ的なものが多いということも学びました。

全くの余談ですが、虫明先生のお名前ペンネームみたいで、素敵です。